幼稚園・保育所における畳の使用実態

正岡　さち*・井上　直美**・亀崎　美苗***・田中　宏子****

Sachi MASAOKA,　Naomi INOUE,　Minae KAMESAKI and Hiroko TANAKA

The Actual Conditions of Tatami-mat in Kindergartens and Nursery Schools

要　　旨

幼稚園・保育所における畳の導入状況や使われ方を調べ、求められる畳を検討することを目的として事例調査とアンケート調査を行った。

(1) 事例調査では、保育室の床材として、それぞれの施設が様々な使い方をしていた。子ども達は寝転がったりリラックスした様子がみられるということであった。一方、畳の耐久性、衛生面が今後の課題と考えられていた。

(2) アンケート調査では、敷き畳は7割近くの施設に、置き畳は6割近くの施設に設置されていた。

(3) 敷き畳を設置している空間は、保育所では低年齢の子どもが使用する室、幼稚園は保育室以外が多かった。設置理由は、保育所では子どもの心理面・安全面と低年齢の子どもの生活や活動に関するものが、幼稚園では、体調が悪い子どもの休息と子どもの遊びの利用が多かった。

(4) 置き畳はどちらの施設においても多くの空間で利用していた。設置理由は保育所では子どもの心理面への配慮、幼稚園では子どもの遊びや活動に関するものが多かった。置き畳は動かせるため多様な形で使用されていると考えられる。

(5) 材質感や他の床材と違った姿勢が取りやすい点や多目的に利用できる点が畳の利点と感じられていた。欠点は耐久性と衛生面であり、置き畳の場合は、加えて収納スペースも課題と考えられる。

(6) 畳の総合評価については、ほとんどの施設がよかったと感じており、幼稚園よりも保育所で、畳の上での子どもの様子が違うと感じている施設で、より評価が高かった。

(7) 新しい畳の利用希望は、畳の衛生面の欠点を補うものの希望が高かった。自然素材のよさが畳の利点でもあることから、今後は、使用する空間や使用目的によって使い分けられていくのではないかと考えられる。

【キーワード：畳、幼稚園、保育所、使用実態】

Ⅰ．緒言

畳には、その物理的効果として、保湿・断熱効果、吸湿・放湿効果、吸音効果、弾力性等があることが明らかになっている[1)～5)]。また、近年、心理的効果としてのリラックス効果があり学習や情意面に影響を及ぼすこと[6)]も明らかになっている。

このような畳の効果は、子どもにとっても様々な面で優れた効果をもたらすと考えられる。また、優れた弾力性は、動き回ることが多い子どもの怪我を防ぐこともできると考えられる。

近年、保育所・幼稚園において、畳の導入が進んでいる。しかし、その導入状況や、使われ方、効果や評価等はまだ明らかになっていない。

そこで本研究では、幼稚園・保育所における畳の導入状況や使われ方、評価や課題等を調べることにより、幼稚園・保育所で求められる畳を検討することを目的として調査を行った。

*　島根大学教育学部人間生活環境教育講座
**　元島根大学教育学部学生
***　埼玉大学教育学部
***　滋賀大学教育学部

Ⅱ．事例調査

1．目的

本研究は、保育所・幼稚園における畳の使用実態、畳の評価を明らかにし、保育所・幼稚園で望まれる畳を検討することを目的としている。同時に、大まかな実態を把握すことで、調査2のアンケート調査の参考とすることも目的とする。

2．調査概要

事前に畳が導入されている施設を調べ、畳がどのような空間に置かれ、どのような使い方がされているのかを写真撮影し、あわせて、施設の担当者にヒアリングによる調査を行った。対象は、松江市内で畳が導入されていたA児童クラブ、B保育所、C幼稚園の3つの施設である。

主な調査内容は、畳の上での子どもの様子や畳を導入した理由、畳を敷いていて良かったこと、困ったこと等である。

調査期間は、平成22年9月～10月である。

３．調査結果及び考察

（１）A児童クラブ

A児童クラブでは、８枚の畳が敷きつめられた８畳の畳コーナーが設けられていた。

図１　A 児童クラブの畳コーナー

A児童クラブは、改築時にこの畳コーナーを設けている。本来は、体調が悪い子どもを休ませる静養室として畳部屋を作りたかったが、設計上困難であった為、畳のコーナーを作ることとなったとのことである。畳コーナーにはテーブルが置かれており、子ども達がゲームをしたり、めんこをする場となっている。

指導員によると、子ども達は他のフローリングの場所等に比べてゴロゴロと寝ころぶことが多いという。

畳の欠点としては、傷みが早くすぐにいぐさのクズが出てしまうこと、梅雨の時期はカビの発生が気になることが挙げられた。

（２）B保育所

B保育所には、０歳児保育室に畳コーナーがあり、１歳児保育室と１・２歳児保育室が畳部屋となっていた。３歳児保育室、４歳児保育室、５歳児保育室には、ままごと用の置き畳が置かれ、必要に応じて出し入れをしている。

図２　B 保育所　０歳児保育室

保育士によると、「低年齢児は座って生活することが多いため、畳は必需品」とのことであった。年齢が高くなると食事をするためのイスに座る空間が必要となるため、フローリングと畳の空間を半々にしており、３歳児以上になると基本的にはフローリングでの生活で、ままごとをする時に畳を出して使用しているという。

図３　B 保育所　１歳児保育室

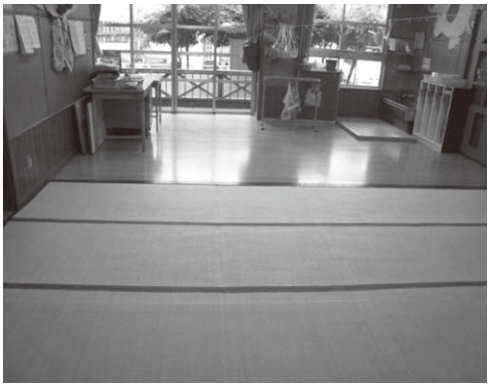

図４　B 保育所　１・２歳児保育室

図５　B 保育所　５歳児保育室

３歳未満の子ども達は、畳が家庭と同じ雰囲気を感じさせ、安心しているように感じるという。さらに、畳があることで、ままごとの際に家の中・外の設定がしやすく遊びが発展していくこともあるという。また、特別な支援を必要とする園児Aは畳のボコボコした触感を音を

たてて楽しんでいる姿が見られるという。

欠点としては、毎日丁寧に掃除をしているがカビやダニなど衛生的に安全であるか不安であることが挙げられた。

（3）C幼稚園

C幼稚園には、預かり保育の午睡、会議、交通安全教室等の行事事の際に使用する多目的室全面に、置き畳を設置して畳部屋としている。また、特別支援クラスに2畳の置き畳が置かれている。

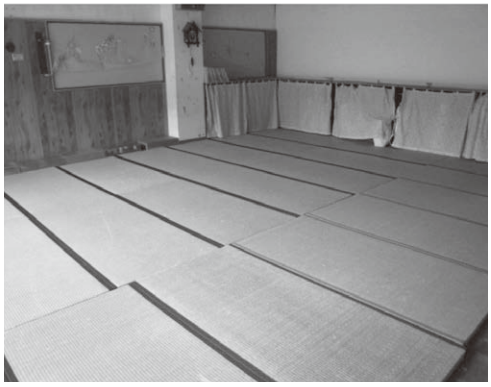

図6　C幼稚園　多目的室

長所として、多目的部屋では、子どもたちが落ち着いて話を聞くことができている、家と同じような環境で情緒が安定するという点が挙げられた。特別な支援を必要とする子どもにとって、部屋の隅に置かれた畳コーナーは、落ち着ける場所としてとても大切な場所となっているという。

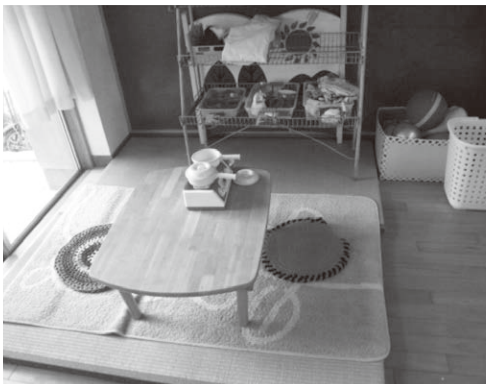

図7　C幼稚園　特別支援保育室

欠点は、夏休みや梅雨の時期などにカビが発生しないように職員が畳を日干しや畳上げをするようにしているが、簡単にできないので大変である点が挙げられた。

4．まとめ

保育室の床材として、多目的に使用する部屋の床材として、またごっこ遊びの際の敷物として等、それぞれの施設が様々な使い方をしていた。

また、“子どもが落ち着く空間を作るため”に畳を設置している施設が多く、フローリング等の床材の上よりゴロゴロと寝転がったりリラックスした様子がみられるということであった。

しかし、畳表のいぐさの傷みが早く、いぐさが擦れ、クズが出る状態で使用していたり、その上にゴザや絨毯を敷いて使用している箇所も見られた。さらに、衛生面での不安が大きく、ダニやカビの発生を気にしており、畳の耐久性、衛生面が今後の課題と考えられる。

Ⅲ．アンケート調査

1．目的

保育所・幼稚園を対象とした畳の使用実態等の研究は、これまで見当らない。そこで、アンケート調査により、島根県内の保育所・幼稚園おける、畳の導入状況や使用方法を把握し、畳に対する評価を明らかにするとともに、どのような畳が求められているかを検討した。

2．調査概要

調査方法は、質問紙法で、調査票は郵送により配布、回収した。

調査内容は、各施設における畳の導入状況、使用方法、導入の目的、畳の上での子どもの様子、畳の長所・短所、新しい畳の利用希望等である。

調査対象は、島根県内のすべての保育所、幼稚園、認定こども園である。

調査票の配布部数は、395部（保育所279部、幼稚園114部、認定こども園2部）、有効回収部数部262部、回収率66.3％である。

なお、調査は、園内の施設を最もよく知る人に回答を依頼した。

調査期間は、平成22年11月～12月である。

なお、今回の調査では、「部屋全体または一部に、最初から床材として畳が使われている部屋、コーナー」の畳を『敷き畳』、「元々フローリング等の床材の空間の床の上に置いている畳（移動させて使用する場合、置いたまま動かさず使用する場合、両方を含む）」を『置き畳』と定義した。

3．調査結果及び考察

（1）対象施設の概要と回答者の属性

① 対象施設の属性と概要

対象施設の属性と概要をそれぞれ、表1と表2に示す。

対象施設の施設は、保育所が67.2％、幼稚園が32.4％、認定こども園が1％である。なお、認定こども園は、回収部数が少なかったため、保育所とまとめて集計を行った。

所在地は松江市が24.0％と最も多く、次いで出雲市、浜田市と続く。

設置形態は、公立と私立が約半数ずつであった。

子ども数は、50～99名が35.1％で最も多く、次いで10～49名であった。また、クラス数は、6クラス、3クラス、5クラスと続く。

表１　対象施設の属性

施設形態	保育所	幼稚園	認定こども園						
	176(67.2)	85(32.4)	1(0.4)						
所在地	松江市	浜田市	出雲市	益田市	大田市	安来市	江津市	雲南市	
	63(24.0)	27(10.3)	42(16.0)	16(6.1)	13(5.0)	20(7.6)	11(4.2)	22(8.4)	
	東出雲町	奥出雲町	飯南町	斐川町	川本町	美郷町	邑南町	津和野町	
	6(2.3)	8(3.1)	2(0.8)	9(3.4)	1(0.4)	1(0.4)	10(3.8)	2(0.8)	
	吉賀町	隠岐郡	不明						
	3(1.1)	4(1.5)	2(0.8)						
設置形態	私立	公立	公設民営	不明					
	123(46.9)	132(50.4)	5(1.9)	2(0.8)					
子ども数	10名未満	10～49名	50～99名	100～149名	150名以上	不明			
	13(5.0)	91(34.7)	92(35.1)	47(17.9)	16(6.1)	2(1.1)			
クラス数	1クラス	2クラス	3クラス	4クラス	5クラス	6クラス	7クラス	8クラス	不明
	17(6.5)	39(14.9)	42(16.0)	39(14.9)	42(16.0)	53(20.2)	14(5.3)	13(5.0)	3(1.1)

＊（　）内は%

築年数は、20年以上が最も多く、総室数は、５室以上が54.2%を占めている。また、１階建ての園が71.4%と大部分を占めている。

表２　対象施設の概要

築年数	10年未満	10年以上	20年以上	30年以上	40年以上	50年以上	不明
	52(19.8)	38(14.5)	65(24.8)	59(22.5)	19(7.3)	7(2.7)	22(8.4)
総室数	5室未満	5室以上	10室以上	15室以上	不明		
	30(11.5)	142(54.2)	61(23.3)	10(3.8)	19(7.3)		
構造	1階建て	2階建て	3階建て	その他	不明		
	187(71.4)	64(24.4)	4(1.5)	2(0.8)	5(1.9)		

＊（　）内は%

② 回答者の属性

回答者の属性を表３に示す。

性別は、男性が11.5%、女性が87.0%である。年齢は、50代以上が６割を占めており、園内での立場は、園長が半数を占めていた。

表３　回答者の属性

性別	男	女	不明			
	30(11.5)	228(87.0)	4(1.5)			
年代	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明
	3(1.1)	24(9.2)	56(21.4)	144(55.0)	27(10.3)	8(3.1)
園内での立場	園長	副園長	主任	その他	不明	
	136(51.9)	23(8.8)	59(22.5)	36(13.7)	8(3.1)	

＊（　）内は%

（２）畳の設置状況

畳の設置の有無をみたものを図８に示す。

全体では約90%の施設で導入されていた。施設別にみると、保育所で95%、幼稚園で74%と、保育所の方が導入率が高かった。

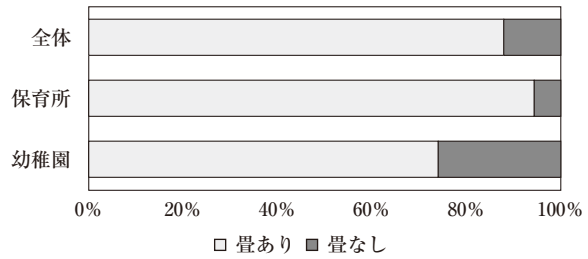

図８　畳の有無

畳がどのような形態で設置されているか見た結果を図９に示す。「畳部屋または畳コーナーがある」が32%、「畳部屋または畳コーナー及び置き畳がある」が35%、「置き畳がある」が21%であった。７割近くの施設に敷き畳が、６割近くの施設に置き畳があり、保育所・幼稚園では置き畳が活用されている状況が伺える。

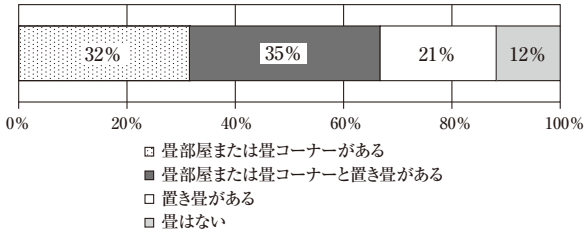

図９　畳の使用形態

（３）敷き畳の現状

次に敷き畳が設置されている空間について施設別に見たものを図10に示す。

敷き畳を設置している空間は、保育所においては年令の低い子どもが使用する室に集中している。幼稚園では、医務室・絵本部屋等保育室以外での設置が多かったが、保育室だけ見てみると、最も年齢の低い３歳児の保育室に設置されており、低年齢児の保育室で畳の利用が高いことが伺える。

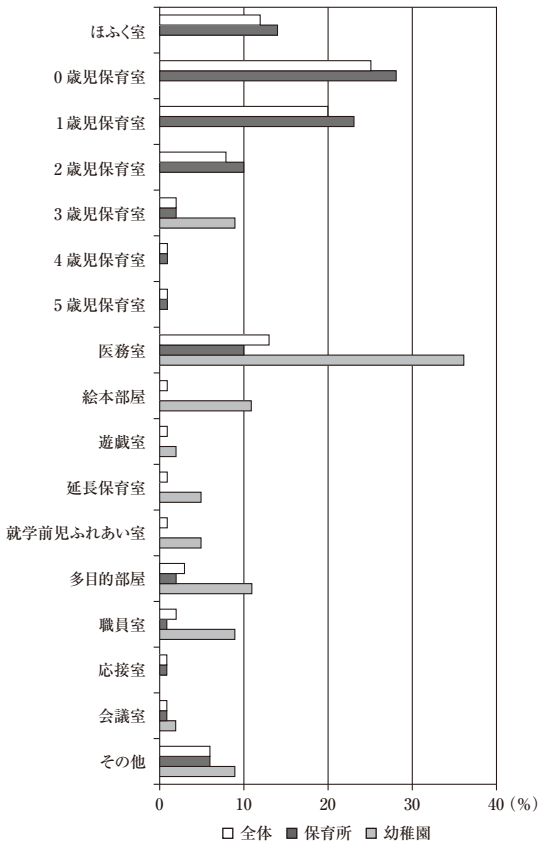

図10　敷き畳を設置している空間

敷き畳を設置している理由について尋ねた結果を図11に示す。

保育所では子どもが落ち着く空間を作るため、家庭に近い環境づくりのためが多く、子どもの心理面への配慮が最も大きかった。また、就寝スペースにするため、はいはいしやすい環境作りのため、ケガをしにくい環境作りのため、も多く、幼稚園と異なり、0～2歳児の低年齢の子どもの生活や活動に関する理由も多かった。

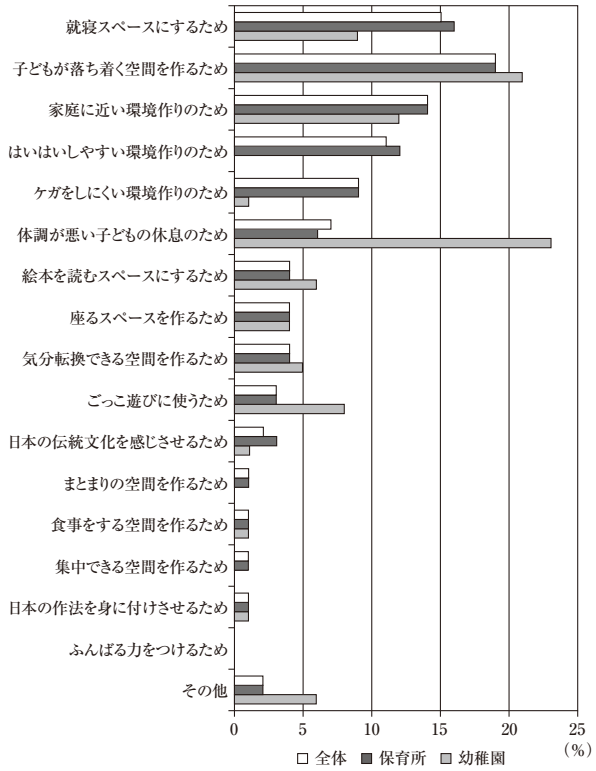

図11　敷き畳を設置している理由

一方、幼稚園では設置されている空間が医務室や絵本室が多かったことから、理由も、体調が悪い子どもの休息のためが多く、次いで、ごっこ遊びに使うため、絵本を読むスペースにするためが多く、子どもの遊び空間としての利用が設置の理由となっていた。

伝統文化を感じさせたり、日本の作法を身に着けさせる等の理由はほとんど見られなかった。

（4）置き畳の現状

表4に置き畳の使用方法について示す。

表4　置き畳の使用方法

置き畳の使用方法	いつも同じ空間 63.9%	複数の空間 36.1%
いつも同じ空間で使用する場合	収納していて必要に応じて出して使用 20.0%	常に出していて収納しない 80.0%
複数の空間で使用する場合	収納していて必要に応じて出して使用 60.3%	常に出していて収納しない 39.7%

置き畳は6割以上の施設で「いつも同じ空間」で使用されていた。同じ空間で使用する場合はほとんどが常に出している状態で使用されており、設置したまま動かさず使用しているのではないかと考えられる。また、複数の空間で使用する場合は、使わない時は収納しており必要に応じで出して使用する場合が6割を占め、様々な用途に使用している場合が多いことが伺えた。

置き畳を同じ空間で使用する場合の空間について尋ねた結果を図12に示す。

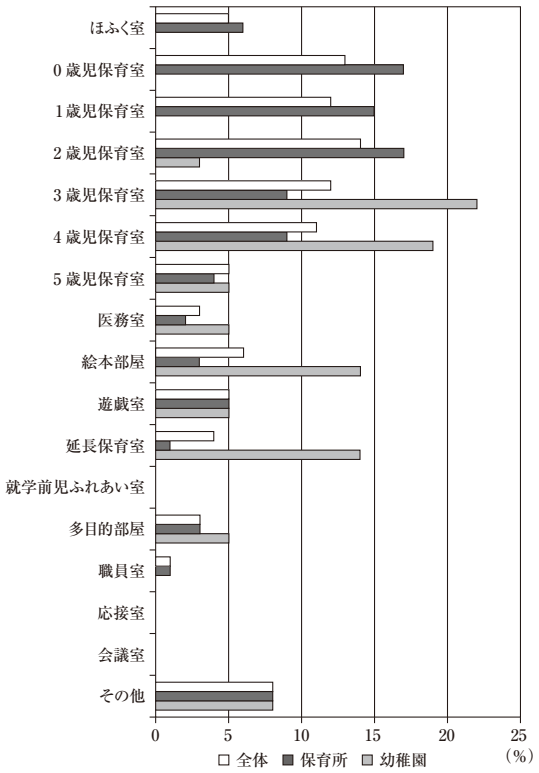

図12　置き畳を同じ空間で使用する場合の空間

まず、保育所について見てみると、保育室における使用は、敷き畳と異なり、低年齢児の保育室に加えて、3～5歳児の保育室でも使用されていた。また、敷き畳では見られなかった、保育室以外の絵本部屋や遊戯室等にも使用されており、多くの空間で利用してる様子が伺えた。幼稚園では3歳児・4歳児保育室で飛びぬけて多かった。また、絵本部屋・延長保育室でも利用されており、幼稚園では、敷き畳より置き畳の方が活用されているのではないかと考えられる。

なお、複数の空間で使用する場合も同様の傾向であった。

次に、置き畳を設置している理由について尋ねた結果を図13に示す。

保育所では、敷き畳と同様、子どもが落ち着く空間を作るため、家庭に近い環境づくりのためが多く、子どもの心理面への配慮が最も大きかった。しかし、敷き畳ではほとんどなかったごっこ遊びに使うため、絵本を読むスペースにするためといった子どもの遊びへの利用に関する理由が心理面への配慮に次いで多かった。

幼稚園でも保育所と同様の理由があげられていたが、保育所よりも子どもの遊びに関する理由がやや多かった。また、保育所に比べて、座るスペースを作るためという理由が多かった。

以上のことから、設置理由は敷き畳と置き畳では異なっており、置き畳は後から設置できる、動かして使える等の特性が設置理由となっていると言える。

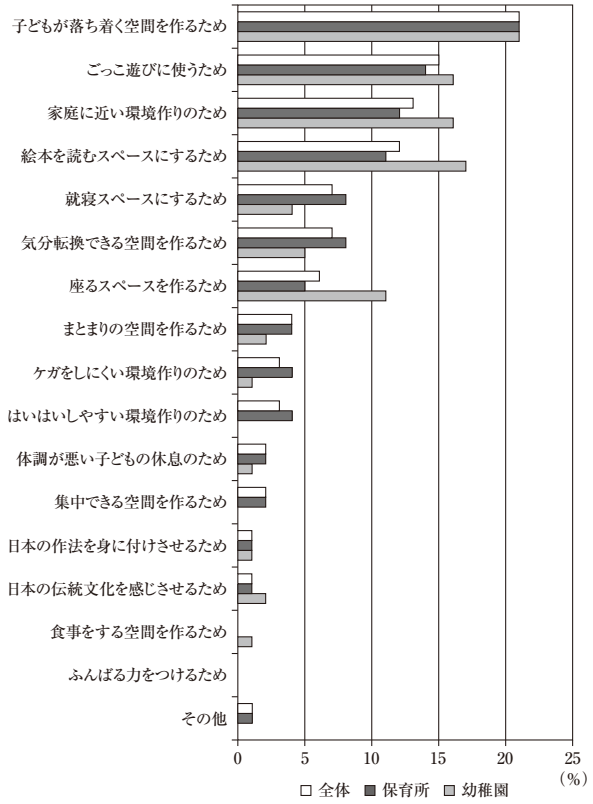

図13　置き畳を設置している理由
（同じ空間で使用している場合）

（5）畳の評価

畳の上と他の場所との子どもの様子の違いの有無を尋ねたところ、幼稚園・保育所ともに約8割の施設が「違いがある」と答えており、畳空間が子どもに何らかの影響を与えている、と実感されていた。

そこで、畳の上での子どもの様子の違いを聞いたところ、図14の結果となった。

リラックスしている・落ち着いている、安心しているが最も多く、心理面での違いが感じられていた。次いで、寝転ぶことが多いが多くなっており、フローリング等の硬くて冷たい床材と異なる畳ならではの影響があるのではないかと考えられる。

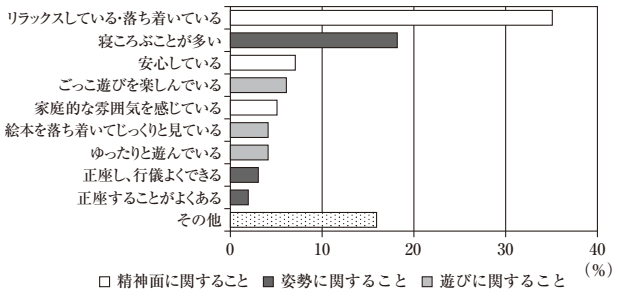

図14　畳の上での子どもの様子の違い

次に、畳の利点を尋ねた結果を図15に示す。

一般的に畳の特性とされている防音効果や保湿・保温効果の項目は低かったのに対し、感触がよい、温かみがある、子どもが安心できる等の畳の材質感や他の床材と違った姿勢が取りやすい点や多目的に利用できる点が利点と感じられていた。ここでも、伝統文化に関する項目の割合は低かった。

保育所では幼稚園より保湿・保温効果がある、じかに寝転がることができるが多かった。幼稚園では保育所より子どもが安心できる、いろいろな用途に使えるが多かった。

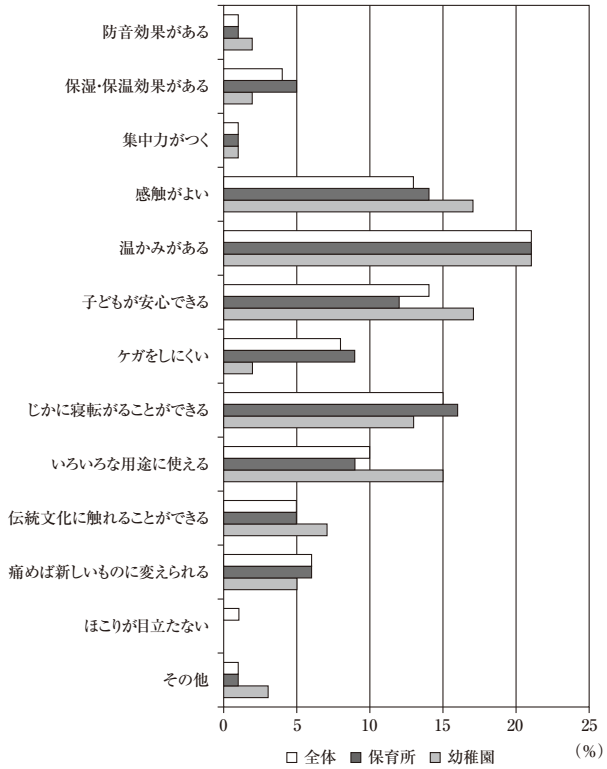

図15　畳の利点

畳の欠点について尋ねた結果を図16に示す。

擦れてクズがでる、水をこぼすとしめる、汚れが落ちにくい、ダニが発生しやすい、が多く挙げられ、耐久性と衛生面を欠点と感じていた。保育所では、子どもが滞在する時間が幼稚園より長いためか、擦れてクズがでる、水をこぼすとしめる、コストがかかるが幼稚園より多かった。一方、幼稚園ではダニが発生しやすい、置くとス

ペースを取るが保育所より多く、幼稚園では、より衛生面への不安があることと、保育所より敷き畳の設置場所が限られており、子どもが敷き畳より置き畳と接する時間の方が長いことが原因ではないかと考えられる。

保育園・幼稚園における畳の課題は、耐久性と衛生面であり、置き畳の場合は、加えて収納スペースの問題であると言える。

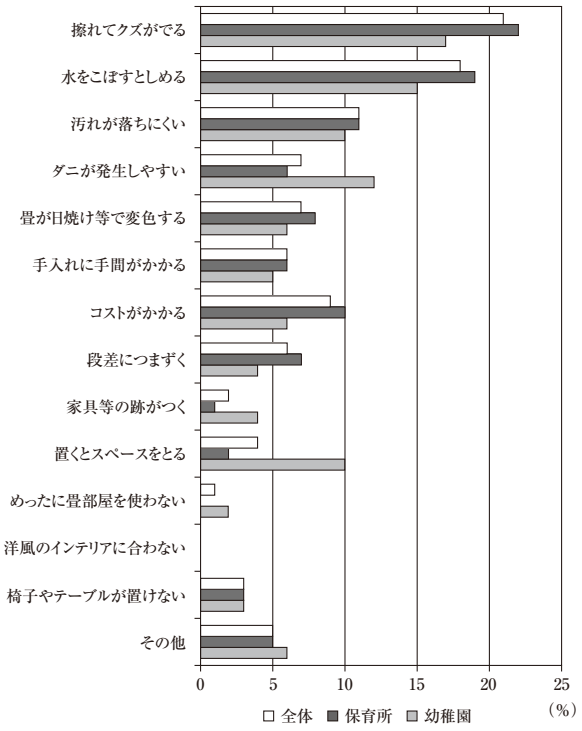

図16　畳の欠点

畳を設置してよかったかどうかという総合評価を尋ねた結果を図17に示す。

約９割の施設が大変よかった、もしくはよかったと答え、畳の評価は高かった。特に保育所では、大変よかったの割合が幼稚園の３倍近かった。

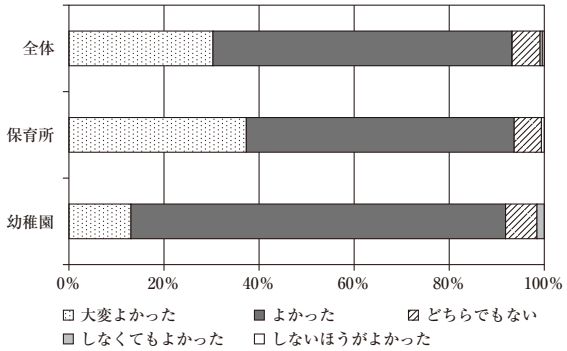

図17　畳設置の総合評価

さらに、畳の上と他の場所との子どもの様子の違い別に総合評価を見たところ（図18）、違いありの施設の方が、大変よかった、もしくは、よかったの割合が高く、子どもの様子の違いを感じている施設ほど、畳の設置に対する総合評価が高かった。

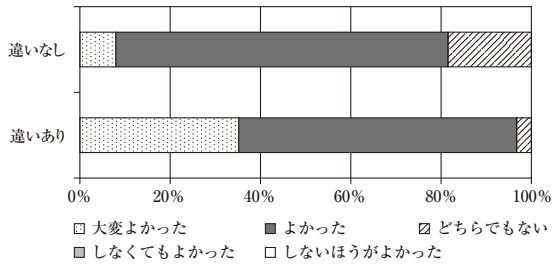

図18　畳の上での子どもの様子別にみた畳設置の総合評価

さらに、保育所・幼稚園における畳空間の重視点について尋ねた結果を図19に示す。

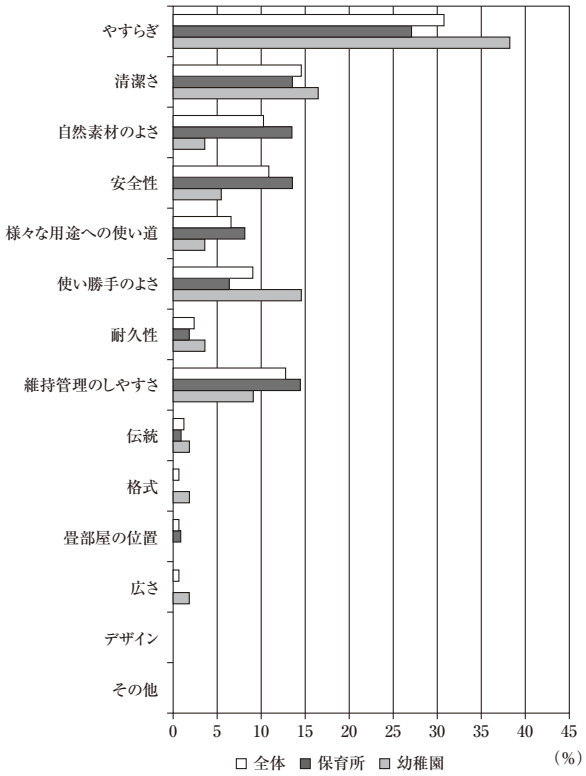

図19　畳空間の重視点

最も重視されていたのがやすらぎで飛びぬけて多かった。次いで清潔さ、安全性等の衛生・安全面、維持管理のしやすさ、使い勝手のよさといった利便性と続いた。伝統や格式といった項目はほとんどあげられなかった。

保育所･幼稚園で比較すると、自然素材のよさ、安全性、様々な用途への使い道、維持管理のしやすさは保育所で多く、やすらぎ、使い勝手のよさは、幼稚園が多かった。これは、施設内での子どもの滞在時間の長さの差によるものではないかと考えられる。

（６）新しい畳の導入希望

畳には長所がある一方で、図16にあげられたような欠点もあるため、近年では、畳の欠点を補う様々な素材を使用したり機能を付加した畳が登場している。そこで、新しい畳の導入希望を尋ねた。

本調査では、様々な新しい畳の中でも効果が異なる７

種類の新しい畳をあげ、導入希望を尋ねた。以下が、項目にあげた７種類の畳である。

①畳表が樹脂で丸洗いが可能なウォッシャブル畳
②光触媒作用で雑菌を分解する光触媒畳
③表は畳、裏面がカーペットで、表裏で使い分けられるリバーシブル畳
④畳床に高反発ボードがはいったやわらかい畳
⑤畳表が和紙でできた和紙・デザイン畳
⑥染め上げたいぐさで作られた、いぐさ・カラー畳
⑦炭化コルクを畳床に使用し、断熱効果がある炭化コルク使用畳

使用してみたい畳を複数回答で尋ねた結果を図20に示す。使ってみたいと挙げられた畳は多く、新しい畳に対する興味は高いと考えられる。

特にウォッシャブル畳と光触媒の人気が高く、衛生的な畳が選ばれる傾向にあることが考えられ、さきほどの欠点に関する結果から判明した、衛生面での課題とつながる結果となった。

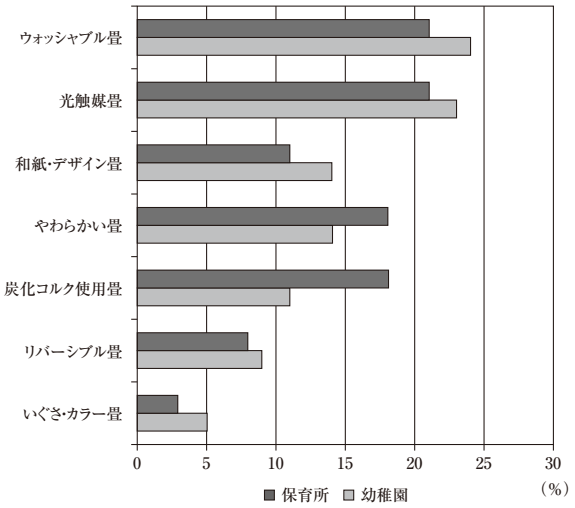

図20　使用してみたい新しい畳

幼稚園・保育所別にみると、自然素材のよさや安全性が重視されていた保育所では、やわらかい畳、炭化コルク畳が多かったのに対し、ダニが発生しやすいことを欠点と感じている割合が高かった幼稚園では、清潔に保てるウォッシャブル畳や光触媒畳が多い結果であった。

また、和紙・デザイン畳やいぐさカラー畳など、見た目が従来のいぐさ畳とは異なる畳は幼稚園で若干高い割合にあり、これらの畳は保育所よりも幼稚園で受け入れられやすいと推測される。

最後に、最も使ってみたい新しい畳を尋ねた結果を図21に示す。

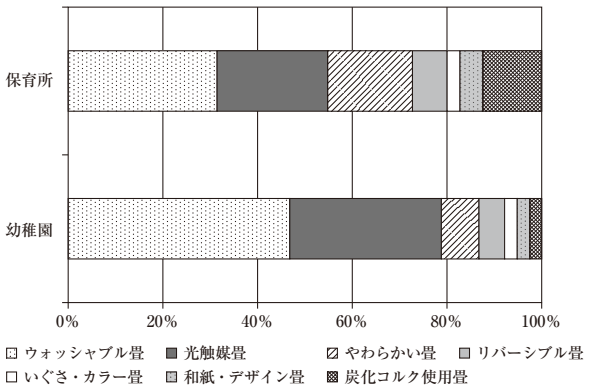

図21　最も使用してみたい新しい畳

ウォッシャブル畳、光触媒畳が最も多く、この２つで６割以上を占めていた。

幼稚園・保育所別に見ると、幼稚園は全体の７割をウォッシャブル畳と光触媒畳が占めていたのに対し、保育所では、ウォッシャブル畳や光触媒畳の他に、やわらかい畳の割合も高く、幼稚園は清潔さ、保育所は清潔さと安全性を最も重視していると考えられる。

また、アンケートでは、「どれも使いたくない」という選択肢を入れていなかったため、「特に使いたくない」や「従来のいぐさ畳がよい」という意見が欄外に記入されていたケースもあり、この問いに回答していない施設は、これまで通りの畳を使用したいという考えが多いと推測され、畳はいぐさであるべきという根強い考え方があることが推測できる。

４．考察

以上の結果から、畳を設置している保育所・幼稚園は非常に多く、高い評価も得ていることから、今後も畳の導入は増えるのではないかと考えられる。

また、設置されている空間は、施設や、敷き畳・置き畳で違いが見られ、それぞれの用途によって目的も異なってはいたが、設置理由は子どもが落ち着ける空間を作るためという目的が多い傾向にあった。

畳の上と他の場所との子どもの様子の違いを実感している施設は多く、畳には心理面で子どもに影響を及ぼしており、その結果、姿勢や活動にも影響を及ぼしている面もあると推測される。

重視点で自然素材のよさを重視する一方、新しい畳では、洗える樹脂の畳表の人気が高く、ぬくもりや安らぎを与える天然素材がよいが、衛生面も不安が大きいために清潔に保ちたいという思いも見受けられた。

いぐさ以外の新しい畳に対する興味は高かったものの、畳の利点や重視点で挙げられていた温かみや、やすらぎ、天然素材のよさは、いぐさの畳を使うことによるものと推測され、今後もしばらくの間はいぐさの畳表が選ばれると予測される。そのため、天然素材であるいぐさの畳の耐久性と衛生面での課題をどう克服するかを考えていく必要があると考えられる。

今後は、使用する空間や使用目的によって、従来のい

ぐさの畳と新しい畳が使い分けられていくのではないかと考えられる。

Ⅳ．要約

保育所・幼稚園における畳の導入状況や使われ方を調べ、求められる畳を検討することを目的として事例調査とアンケート調査を行った。以下に、その要約を示す。

(1) 事例調査では、保育室の床材として、多目的に使用する部屋の床材として、またごっこ遊びの際の敷物として等、それぞれの施設が様々な使い方をしていた。子ども達は寝転がったりリラックスした様子がみられるということであった。しかし、畳表のいぐさの傷みが早く、畳の耐久性、衛生面が今後の課題と考えられた。

(2) アンケート調査では、敷き畳は7割近くの施設に、置き畳は6割近くの施設に設置されていた。

(3) 敷き畳を設置している空間は、保育所では低年齢の子どもが使用する室、幼稚園は医務室・絵本部屋等保育室以外での設置が多かった。設置理由は、保育所では子どもの心理面・安全面と低年齢の子どもの生活や活動に関するもの多かった。幼稚園では体調が悪い子どもの休息と子どもの遊びへの利用が多かった。

(4) 置き畳は、どちらの施設においても、多くの空間で利用している様子が伺えた。設置理由は、保育所では子どもの心理面への配慮が最も多く、幼稚園では子どもの遊びや活動に関する理由がやや多かった。置き畳は動かせるため、多様な使い方ができ、実際に多様な形で使用されていると考えられる。

(5) 保育者の目には、子ども達は畳の上では他の場所よりもリラックスしていると映っていた。

(6) 畳の利点は材質感や他の床材と違った姿勢が取りやす点や多目的に利用できる点が利点と感じられていた。欠点は耐久性と衛生面であり、置き畳の場合は収納スペースも課題と考えられる。

(7) 畳の総合評価については、ほとんどの施設がよかったと感じており、幼稚園よりも保育所で、畳の上での子どもの様子が違うと感じている施設で、より評価が高かった。

(8) 新しい畳の利用希望は、ウォッシャブル畳と光触媒が多かった。これは、畳の衛生面が欠点を補うものとして選ばれたと考えられる。自然素材のよさが畳の利点でもあることから、今後は、使用する空間や使用目的によって使い分けられていくのではないかと考えられる。

Ⅴ．引用文献

1）森田洋：イグサのすべて、新芽出版（2008年）

2）森田洋：イグサ、地域特産物の生理機能・活用便覧、株式会社サイエンスフォーラム、p.470－473（2004年）

3）森田洋、塩澤正三、大森智子、志水由紀、稲田剛夫：イグサの抗菌性と腐敗試験、防菌防黴、30、p.785－790（2002年）

4）森田洋、馬見塚香織、志水由紀：イグサによるレジオネラ菌の生育阻止効果、防菌防黴、33、p.3－389（2005年）

5）早水輝好、柳沢幸雄、西村肇：室内材のNO_2収着特性と生物学的除去の可能性の検討、大気汚染学会誌、18（1）、p.18－23（1983年）

6）森田洋、福田翼、堤一代、馬見塚香織：畳を用いた学習環境が児童・生徒の学習面と情意面に及ぼす影響、日本家政学会誌Vol. 60、No. 4、p.323～330（2009年）